

一般入選作品 <俳句の部> 選者 天野 薫先生

特選 天	八月六日滴るメロン切ってゐる	太田 菊代
地	コスモスの風に歩を恋ふ母の杖	掛井 広通
人	そわそわと迎火を焚く夫の来よ	山田 まち子
優秀賞	秋扇昭和の風を戻しけり	安西 ときわ
優秀賞	木洩れ日の径に風呼ぶ落し文	中山 敏子
優秀賞	こんな日は心ゆくまでちしろ虫	山田 祥子
佳作	迎火や祖父に聞きたきことありて	安間 恒雄
佳作	夕食は何はなくとも茄子を焼く	三倉 小季
佳作	庭に聞き霊園に聞く不如帰	内野 百合子
佳作	白萩の枝もたわわに裏鬼門	山本 つる代

一般入選作品 <川柳の部> 選者 佐野 由利子先生

特選	新コロナ案山子親子もマスク掛け	鈴木 織江
優秀賞	髭剃りを忘れマスクに助けられ	榛葉 貞坊
優秀賞	感情を見破れぬようマスクする	浅原 幸子
佳作	マスク取り実年齢の顔になり	河村 公成
佳作	誰れだっけマスク外してあああんた	青木 友子
佳作	美しい笑顔の邪魔をするマスク	松川 多賀男

一般入選作品 <短歌の部> 選者 村松 幹子先生

特選	父さんは何があっても受けて立つキャッチャーマスク外 ^{はず} せない	高橋 ちよ子
優秀賞	香をのせてカサブランカの揺れている慕いし友の今日は命日	永田 乃子
優秀賞	釘抜きが欲しいと呟く教師あり深く刺さりし心の釘を	野村 久
佳作	朝露に陽はやどりゐて道草の青なほあをき野辺にやすらふ	友田 恭水
佳作	年重ね失うものは多かれど今ある姿受け入れて生く	二村 園子
佳作	目覚めれば新しい朝嫁の声孫の声して今日の始まり	鈴木 静子